

くまっこクラブ 放課後等デイサービス 自己評価表 平成 29 年度

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制 整備	① 利用定員が指導訓練室などのスペースとの関係で適切である。	○			ひろびろとした明るいお部屋で、のびのびと活動できます。
	② 職員の配置数は適切である	○			利用定員に対して、基準の職員配置より1名多く加配しています。加えて、専門分野の学生アルバイトなども積極的に受け入れるなどの努力もしています。
	③ 事業所の設備などのバリアフリー化の配慮が適切になされている		○		玄関にスロープをつける。階段などに手すりをつけるなどの配慮をしていますが、中古住宅を改修しているため、既存の段差などがある部屋もあります。
業務 改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定とふりかえり）に広く職員が参画しているか	○			年度当初の各事業の目標設定、年度末のふりかえりが職員主導であることはもちろんのこと、月ごとのミーティングでも、常にふりかえりを大切にしています。
	⑤ 保護者むけの評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して、保護者の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○		保護者会や保護者面談などを定期的に行い保護者の意向をお聞きする機会を設けています。今後、保護者むけ評価表の実施も検討しています。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページで公開しているか	○			はい。当事業所のホームページで公開しています。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	いいえ。これまではしていません。今後は検討します。
適切 な支 援提 供	⑧ 職員の資質の向上を行うために研修の機会を設けているか	○			年間を通して研修計画にそって研修を行っています。外部研修、他事業所との合同研修なども積極的にとりいれています。
	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			保護者の方との面談や事前アンケートを行うだけでなく、子ども（利用者本人）たちにも、絵カードその他のツールも使いながら、本人の「ねがい」も大切に計画をたてています。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		当事業所におけるアセスメントツールを使用し、適応行動の状況を把握しています。

	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			放課後等デイサービスの職員ミーティングに活動を起案し、討議しながら活動計画をたてています。
	⑫	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	○			事業所内だけでなく、他事業所との活動交流や、研修を通して、常に新しい活動を模索しています。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			学校稼働日、長期休暇それぞれの活動目標を定めて、それにそって支援をしています。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			ひとりひとりの子どもの状況や、発達段階を考慮しながら、個として成長、集団の中で育ちあう場のそれぞれ意識しながら活動をつくっています。
	⑮	支援開始時には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○		週に1度は必ず担当職員全員でミーティングを行い情報共有に努めています。しかし、毎日の支援時間前の打ち合わせの徹底は充分とはいえません。勤務シフトの調整など、今後も工夫がいることだと考えています。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援をふりかえり、気づいた点を共有しているか		○		出来る限り、支援終了後の時間は日誌を書きながら、支援のふりかえりと気づきを共有しています。送迎などで同席できない職員には、重要な気づきはメモなどで共有する努力をしています。
	⑰	日々の支援に関して、正しく記録をとることを徹底し、支援の検証、改善につなげているか	○			日々の記録は、全体の活動のふりかえり、ひとりひとりの成長への気づきを共有するためにも、日頃より大切にしています。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			年に2回のモニタリングを複数名の職員で丁寧に行い、計画の見直しをすると共にその結果を保護者とも共有しています。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○			ガイドラインを参考にしながら、当事業所の個性を大事にした活動をつくっています。
関係機 関や	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子共の状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			常に児童発達管理責任者もしくは、現場チーフが担当者会議に参画し、当事業所の見解を適切に伝えています。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定などの交換、子どもの下校時刻の確認など）、連絡調整（送迎時の対応、ト	○			常に、それぞれの学校とは連絡を密にし、情報を共有するとともに、問題が発生した場合にも話しあいができる関係づくりに日頃より留意しています。

保護者との連携		ラブル発生時の連絡)を適切に行っているか			
	②②	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医と連絡体制を整えているか			現在、当事業所では受け入れていません
	②③	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		相談支援専門員さんのお力も借りながら、できるかぎりの情報共有、相互理解をしたうえで、お子さんをお預かりすることを目指しています。
	②④	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか	○		必要に応じて、情報を提供し、適切な移行支援が行われることに、積極的に協力しています。
	②⑤	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		特に近年は、発達障害のお子さんやそのご家族の支援について専門機関の助言を受けると共に、障害理解のための研修にも積極的に職員をだしています。
	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会はあるか		○	利用者の家族、兄弟とともに運動会やおまつりなどの活動をしています。しかし、定期的に障害のない子どもたちやそのような団体との交流をするにはいたっていません
	②⑦	(地域自立支援)協議会などへ積極的に参加しているか		○	当事業所として参加してはいるが、市内の放課後等デイサービス連絡会を通じて、意見を伝えています。
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	○		保護者の方との日頃からのコミュニケーションを大切にしています。小さな何気ない変化も共有しながら、ともに成長を見守るお手伝いをしています。
保護者への説明	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか。		○	日常の中で、保護者の相談には積極的にのっていますが、専門的にペアレントトレーニングを行うためには、職員の研修の必要性があると認識しています。
	③⑩	運営規定、支援の内容、利用者負担などについて丁寧な説明を行っているか。	○		利用に際しては、運営規定、支援の内容、利用者負担などについて必ず丁寧に説明しています。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		保護者の方からの相談には常に、親身に対応しています。時に応じて専門家への紹介なども含めて適切な支援をめざしています。

責 任 な ど	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者同士の連携を支援しているか	○		親の会との協同は、当事業所の活動を支える大きな柱です。常に連携しながら、つながりあい支えあう親同士の関係を支援しています。
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		法人内に苦情受付窓口を設けると共に、苦情受付の第三者委員や第三者機関についても周知し、保護者からの苦情を受け付けそれに迅速に対応できる体制をとっています。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		定期的に機関紙やニュースを発行し、活動の概要や行事について、保護者に発信しています。またホームページやフェイスブックなども利用し、日々の活動を発信する努力を行っています。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	○		個人情報の取り扱いには、日頃から十分に注意しており、支援に必要な情報共有についても、必ず保護者の方の了解を得ます。また、保護者の了解なしに、機関紙等に写真や名前を掲載しません。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		障害特性や家庭環境を十分に理解した上で、一方的ではないコミュニケーションを心がけています。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業所運営を行っているか	○		常に地域と開かれた事業所運営を意識しています。特に夏と秋には広く地域によびかけ、地域の方々をお招きしての収穫祭を行っています。
	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか？		○	マニュアルはそれぞれに作成し、職員には周知及び研修も行っていきます。しかしながら、保護者のみなさまに事業所内に掲示（保管）の周知徹底が不十分かもしれません。今後徹底するよう努めます。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に消防署の指導も仰ぎながら、様々な場面を想定し、避難訓練を行っています。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		毎年、県の虐待防止研修には、管理職が参加し、その上で虐待防止の研修を事業所内でも丁寧に行っています。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず、身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明理解を得		○	現在のところ身体拘束が必要と認める児童生徒はいません。しかしながら、短時間でも拘束が必要となる場合には、必ず保護者の方ともご相談の上、個別支援計画

	たうえで、放課後等デイサービス計画に記載しているか。				に記載し、適切な支援体制、相互理解の上で慎重に対応します。
④②	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			食物アレルギーに関しては、事前のアセスメントでも丁寧に情報を共有し、それぞれの医療機関の指示に従って対処します。
④③	ヒヤリハット事例集を作成して、事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハットは、常に事業所内で、回覧共有するようにしています。

以上 ご報告いたします。

平成 30 年 5 月 10 日

NPO 法人 くまっこクラブふくい

理事長 松川 徹